

パソコンのデータの保管場所 ハードディスクを長持ちさせるために！

やってはいけない4つの約束事



振動・衝撃を与える

強い衝撃や振動を与えてはいけません。機械部品の集合体にとって、外部からの衝撃は最大の故障要因となります。電源オフ時ならまだいいですが、動作中ならデータを読み書きしているヘッドが、磁気記録板にぶつかって傷をつけたりするので危険性は飛躍的に高まります。



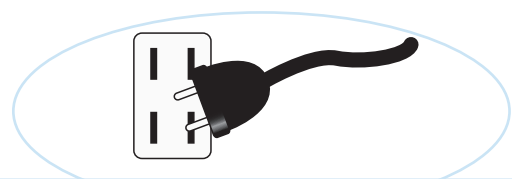
高温状態で放置する

高温状態で放置するのも厳禁です。たまたま車のボンネットや日差しが強い場所に放置されているパソコンを目にすることがあります。高温状態に置いておくと、ハードディスクで使っている半導体や駆動系部品の寿命が短くなりますので、できれば常温程度で使うようにしましょう。



磁石を近づける

磁気データを読み書きするハードディスクにとって、外部からの磁力による干渉も不具合になる原因のひとつです。誤ったデータを記録したり、勝手にデータを上書きするなどの誤作動を招きます。ノートパソコンの場合、アームレストのすぐ下に内蔵することが多く、磁気ネックレスなども原因になります。



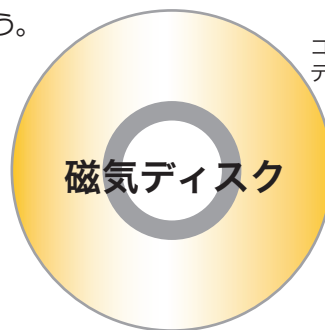
動作中にコンセントを抜く

動作中のパソコンからコンセントを抜くことも論外です。物理的に壊れることはまれですが、Windowsを読み込めなくて起動しなくなったり、保存していたデータが消えてしまうこともあります。突然の電源の遮断はなるべく避けたいものです。

「衝撃」がハードディスクの寿命を縮める

レコードや音楽CDの盤面に傷が付くとどうなるでしょう。軽傷なら、症状が出なかったり、音が一瞬飛ぶだけで済みます。重傷だったら音楽を再生できなくなります。ハードディスク故障もこれと同様の原因で起こります。

一番多い原因は、ハードディスクの保護膜が傷つき、その削れた部分からゴミがでる。そのゴミが磁気ディスク上のデータを読み書きする際にディスクを傷つけます。もちろん、強い衝撃によって磁性膜まで傷つけてしまう場合もあります。この場合は、すぐに何らかのトラブルが現れます。



ゴミがヘッドに付着してディスクを傷付ける



編集者より：ハードディスクはデリケートな精密機械です。しかも、大事なデータなどを保存している場所でもあります。ちょっとした事で傷つくこともありますのでパソコンは大事に扱きましょう。（田中）